

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 新年賀詞交換会1
- 理事会報告2
- 「Mark Gresham (UPS) 氏の IPG における講演要旨」...3
- 委員会報告4
- 出版文化史逍遙 (94) 洋書の歴史雑記帳 [XLIX] ...5

新年賀詞交換会

新年恒例の賀詞交換会。参加53社166名の懐かしい顔ぶれ。ウェルカムドリンク片手に会場へ。賀詞交換会とは言っても皆顔見知りばかり。笑顔の中に家庭的な雰囲気が漂います。大洋交易 和田氏の軽快な司会でパーティの始まりです。

まずは文化厚生委員長 UPS社マーク・グレシャム氏の挨拶です。今回は英文のままご紹介します。

Good evening. . . and a very happy new year to each of you.

I was home in West Virginia for 10 days over the Christmas and New Year holidays. While I was there it was quite cold . . . the high temperatures for the first few days were minus 10 degrees, minus 13 degrees and so forth. Unfortunately, these low temperatures were not accompanied by snow. I love snow and I guess my neighbors here in Tokyo know that I love snow. Apparently, while I was away in the US it snowed two times here in Tokyo and although it was mostly gone by the time I returned, still, my neighbors had lovingly made a big pile of snow in front of my door when they cleaned their steps and walks. By the time I found it, it had turned to a solid block of ice!

The year 2004 was a mixed year, with a number of good things and bad things, both personally and professionally. I' m happy that it' s over and I' m looking forward to a much better 2005. This is the year that I hope we as the



foreign publications importers in Japan will regain the initiative and reassert our leadership role in the industry.

Before I end my little speech, I would like to introduce to you some guests here tonight. (Please show who you are by raising your hand when I say your name.) First, we have two people here from Toppan Travel Service: Mr. Yokomizo and Mr. Sano. From Usagi Shuppan we have Ms. Ashida. From MK International we have Ms. Kitamura and Ms. Oba, and from Sun Media we have Mr. Matsushita and Ms. Mabuchi. Let' s welcome them here tonight.

Finally, I have a box here in my hand that I will later place on the piano. This is for donations in the name of JAIP to the relief efforts for the victims of the tsunami in SE Asia. Please be generous.

As always, please enjoy the food, the drink . . . and most of all the conversations with friends and colleagues. Thank you.

いっつもながらマークさんの英語は学校の先生を思わせる優しさと笑顔が印象的です。続いて日本洋書協会理事長 丸善 村田誠四郎氏の挨拶をご紹介します。

「皆さん、新年あけましておめでとうございます。昨年は海外出版企業の合併、国内取次ぎの問題、国立大学・公立大学の独立法人化等々、問題が多々ありましたが、この様な外圧・重圧



を押しつけて、我々はお客様が本当に喜ぶサービスや商品を提供する、そこに知恵を絞って新しい芽を吹き出させ、そして発展する年としたい。また厳しい、厳しいと言っても限りがないので、これが普通だと思って新しく成長を成し遂げて行きたいと思います。協会の皆様と所属される企業が今後ますます発展されますように」と結ばれて乾杯のご発声をいただきました。

村田理事長の優しさの中に協会の発展を願う力強いリーダーシップを感じるスピーチでした。料理、飲み物、プレスクラブの雰囲気、会場からの夜景、ピアノ生演奏の心地良い響き。時のたつのも忘れるひとときでした。また当日会場では、新田理事の提案でスマ



ラ沖地震のカンパがあり、多くの義援金が集まりました。ご協力、ありがとうございました。

来年もまた同じプレスクラブでお逢いしましょう。今年も会員の皆様にとって良い年でありますように。

(東亜ブック 鶴 三郎)



理事会報告

日時：平成17年1月26日（水）

1. 委員会報告

(1) 総務委員会

- ・ロゴ選定 理事会の場で最終的に3点の候補が選ばれた。印刷等利用媒体を考慮して、総務委員会で決定する。
- ・総会 5月27日（金）プレスクラブで行う。午後3時から理事会、4時から総会、6時から懇親会。理事会用の小会議室があるか確認する（事務局）。選挙管理委員長を候補者の中から依頼する。
- ・来期予算策定 各委員長、事業等を計画する理事は積極的な活動を前提とした予算を2月中旬までに提出する。

総務委員会では固定経費を合わせた1回目のドラフトを作成。2月の理事会で討議する。

(2) 広報委員会

- ・セミナー 2月24日のセミナーは、グレシャム副理事長を通して内容等を詰めている。会場は四谷の弘済会館を予約した。3月にも別のセミナーを企画中。

(3) ダイレクトリ－・HP委員会

- ・コンテンツ 山川委員長からホームページへの掲載について下記提案があり了承された。

①5月の理事選挙の速報 ②理事会記録

他にも各委員会報告、同好会の案内等広く掲載する。

(4) 文化厚生委員会

- ・日程 ①サマーパーティー：7月15日（金）
②新年賀詞交歓会：来年1月6日（金）
いずれもプレスクラブで行う。

2. その他

- ・若手会議 楠本理事（代）から1月25日に行われた若手会議の報告があった。

3. 事務局から

- ・報告（略）

「Mark Gresham (UPS) 氏の IPGにおける講演要旨」

Mark Gresham氏が2004年11月25日、ロンドンにてIPG(The Independent Publishers Guild)メンバーに対して、日本の洋書マーケットについて講演されました。

講演要旨：

まず初めに、UPSと日本での外国書籍輸入販売ビジネスにおける私たちの役割について簡単に説明いたしました。私たちが取り扱う書籍は、大きく以下の3つの主要ラインに分類されます。

- ・ 学術研究書、レファレンス、教科書（全体の約70%）
- ・ Cambridge English Language Teaching (ELT)（全体の約20%）
- ・ 美術、建築およびグラフィックデザイン（全体の約10%）

現在、UPSはexclusiveおよびsemi-exclusiveの販売代理業者、またはオープン市場の仕入れ業者として、200社以上の出版社と取引をしており、俗に“giant”と呼ばれているCambridge University PressやTaylor & Francisなどの出版社から、アメリカの非常に小さい大学出版局や専門出版社など様々な出版社と取引をしています。私たちのビジネスは、リテールチェーンや書店などへの販売が主であり、彼らの図書館への販売は全体の80%以上を占めています。ジャーナルは取り扱ってはいませんが、書籍と極まれに電子製品を取り扱っています。

次に、私たち書籍販売代理店としての観点から、日本のマーケットの特質についてお話いたしました。日本の外国書籍のマーケットは、圧倒的に学術領域に偏向しています。もちろん、英語教育教材のマーケットも存在していますが、現代、古典に限らず、小説のパーパーバックがほとんどを占めていると思われます。この点を説明する際、いつもジェフリー＝アーチャーの書籍を例に挙げるのですが、現代の作家によって書かれたほとんどの小説は日本語に翻訳されており、オリジナルの英語版を読む必要はほとんどありません。つまり、ジェフリー＝アーチャーの小説にすごく興味があっても、日本語で読むことができるのです。日本に英語版オリジナルパーパーバックの市場がある理由は、多くの人々が英語学習の教材として利用しているからだと思われます。学校や会社、もしくは語学学校などで長年英語を学習しているため、このような

英語の書籍を娯楽として読むことも可能なでしょう。しかし、英語を母国語としている市場とは異なり、日本では、(XYZ出版のABC図解入り百科辞典といった)一般書籍およびテキストレベルの学術書籍の市場はほとんどありません。このような類の書籍は、教授や教育者などにとっては(学術的な意味で)レベルが低すぎるでしょうし、(アメリカやイギリスではこれら書籍の対象市場なのですが)一般の読者にとってはレベルが高すぎます。もし、どうしても一般書籍を日本で販売したいと言うのであれば、日本語訳版を出版するためのパートナーを探すのが一番の得策なのです。

次に、UPS や他の書籍販売店が作成した、二ヶ国語で印刷されたカタログ、チラシ、パンフレット、ウェブサイトなど、新しいタイトルや蔵書状況などを伝える広告物をいくつかお見せしました。

JAIPの3月、4月のニュースレターに掲載されていた数値を用いて、2003年の外国書籍輸入（ジャーナル、雑誌、新聞などは含まず）の内訳を説明いたしました。これらの数値は日本政府が公表したもので、輸入インボイス1件あたりの輸送費用が20万円以上の書籍のみ対象としているため、公表されている数値よりも実際には数パーセントの上乗せがあるかと思われます。2003年の平均換算レート、1英ポンド=¥189.40を用いて計算すると、“公式”の年間書籍輸入価格は214,281,943ポンド（405.8億円）となり、イギリスからの書籍はその内、約3,870万ポンドです。もちろん、この数値は学術書籍に限らず、ELT関連書籍、小説などが含まれており、2003年においてはハリーポッターの最新刊も含まれています。さらに、全体の年間書籍輸入価格とイギリスからの輸入価格において、2003年の数値を、それぞれ2002年と2001年の数値を用いて比較しました。

次に、日本の大学について少し言及しました。日本には、本年4月に独立行政法人化された国公立大学も含め、約700の大学がありますが、5つ以上の学部を有している“大きい”大学は94しかありません。このような94の大学が、中央図書館以外にどのような学部図書館を有しているかグラフを用いて説明しましたが、最も多い分野で経済学および法律学（60件以

上)、次に工学および文学・言語学(50～60)、そして医学、一般科学、教育学(40件以上)の学部図書館が存在します。UPSが最も多く販売しているタイトルが、工学および文学・言語学の分野であるのも不思議ではありません。

文部科学省が提供しているデータをもとに、大学図書館が1994年から2003年までの10年間に購入した日本語書籍と外国語書籍の費用の比率を計算してみました。これによると、対象期間中に大学図書館が購入した書籍数は、常に年間500万タイトル以上を保っています。しかし、1998年の例外を除き、購入費用は1996年から年々減少しています。では、どのようにして、前年より数十億円も購入費用を削減しているにもかかわらず、毎年500万タイトルの書籍を購入することができたのでしょうか。答えはUPSの経験上からも明らかなのですが、和書の方が外国書籍よりも一般的に安価なため、大学図書館は日本語書籍の購入数を増やし、外国書籍の購入数を減少させているのです。また、ハードカバーとペーパーバックの比率も著しく変わり、数年前まではペーパーバックの書籍は全体の60%に過ぎなかったのが、現在では約80%を占めています。なお、全体の図書館予算(書籍、ジャーナル、新聞、電子製品などを含む)に対する書籍購入予算は、1993年は53%でしたが、2003年には42.5%まで減少しています。

日本の大学が直面している危機に関し、私のコメントを裏付ける資料として、日本の出生率の変化を記したグラフをお見せしました。1974年の出生数は200万以上でしたが、2003年には約110万まで落ち込んでいます。出生率の減少が大学生の人口を年々減少させており、この傾向は2007の新入生の世代まで続くと見

られています。ここ数年間、私はこのような問題に関する新聞記事(英語で書かれたものですが)に注目し、切り抜いて保管していました。(例えば、「入学者数の削減にともない、52の短期大学への助成金が削減」、「出生率の低下がすでに及ぼしている影響」など)

特に私たちのような学術的・専門的書籍を扱う業者にとって、外国書籍の輸入業界には悪いニュースばかりが目立ちますが、ここに新しく4つの戦略を提案します。

- 1) 日本における新しい市場の開拓：大学や学術機関以外に書籍を販売するチャンスはないのか？もしあるとしたら、どのようにその市場に切り込むことができるのか？
- 2) 新しい分野の開拓：経済学、文学・言語学の他に、日本の大学における新進の研究分野は何か？また、それらの分野においてどのような書籍が存在しているのか？
- 3) 新しい出版社の開拓：上述2において言及した新しい学術分野において、どのような出版社が存在しており、またどのように連絡できるのだろうか？彼らはすでに日本でのビジネスを展開しているのだろうか？もしそうであれば、彼らのビジネスを拡大するためどのような手助けができるのだろうか？
- 4) 新しい商品の開拓：私たちおよび取り引き出版社の相互利益のため、製品の局在化、つまり二ヶ国語版や日本語版を作成することで、販売機会を拡大することができるであろうか？これは日本の出版社に限らず、私たちでも独自にできるであろうか？

(訳：ダイレクトリーHP委員会：山川 隆司)
(協会ホームページから転載)

委員会報告 <文化厚生委員会>

第46回麻雀大会開催される

2月4日(金)20名の雀豪が集い、外は厳しい寒さも大会は暑く白熱した戦いが行われました。前半戦より大きな動きがあり、中盤戦では正田さんの役満も飛び出し、勝負の真剣さの中にも親睦的和気あいの内に大会は楽しく終了致しました。

優勝 雨宮(洋販) +98点
準優勝 正田(事務局) +59点
第3位 鈴木(雄松堂) +37点

洋書の歴史雑記帳〔XLIX〕ドイツ学術受容の歴史(12) 鈴木陽二

◆シーボルトの来日(2)―出島雑談―

身近にシーボルトの資料を参照出来ない事情となり、今回はシーボルトに関連して、出島についてとりとめのない雑談をすることをお許しいただきたい。

出島は、もちろんオランダ商館が所在した島で、商館付医師として赴任したシーボルトは当然ながら出島に居住した。大正11年、国の史跡に指定された出島は、平成8年から長崎市がその復元事業をスタートさせ、当面「短期計画」として2010年完成予定で工事を進めている。出島は1636(寛永13年)の築造以来改修と火災焼失による再建などその姿は変遷を重ねてきたが、どの時代の出島を復元するのか、膨大な資料を蒐集して検討を重ねた結果、19世紀初頭の姿を再現することになったと言う。復元の基本図になったものは幾つかあるようだが、シーボルトの植物図などを画いた出島絵師川原慶賀の筆になると言われる「長崎出島之図」、これを模したと見られるシーボルト『日本』掲載の平面図、商館長ブロムホフの指示で作成された20分の1の「出島模型」とその「平面図」などが重要な原図になったようだ。この時代はケンペル、ツェンペリー、シーボルトなど先進的な西洋学術を日本に扶植した優れた学者が来日し、この時代を契機に日本の学問が大きく飛躍したことを思うと、復元の時代選定は極めて妥当だと思える。

筆者が最後に長崎を訪れた平成15年には既に幾棟か復元されていて、和風の洋館が立ち並んだ町並みは不思議な雰囲気をかもし出していた。長崎では何時も港(出島)の近くのホテルに宿泊するが、繁華街で夕食をとった後必ず夜の出島を抜けて帰る。薄暗い街灯の中に黒々と横たわる家並は強烈にエキゾチシズムを感じさせ、200年の時空を越えた臨場感に包まれて、つい感傷に浸ってしまうのだった。

出島はポルトガル人幽閉のため1636(寛永13)に築造し、ポルトガル人来航の完全禁止の後に、平戸で手広く貿易を営んでいたオランダ商館を1641(寛永18年)強制移転させた。ちなみに出島が扇型なのは、家光がかざした扇を模したとシーボルトも記したが、実際には岬の先端の海に扇型の砂州が発達してその上に築造したためだった。ともあれ、以降この1万5千平米の小さな人工島は日本で唯一の海外貿易の拠点と

して、また西洋学術文化摂取の窓口として幕末までの230年程日本の政治・経済・文化などあらゆる局面で直接的・間接的影響を与え続けて来たと言えるだろう。

出島の北は海峡(今は中島川)を挟んで江戸町だが、ここには1,679坪という広大な敷地を占めて長崎奉行所西役所があった。そして、幕末ここは近代日本の進展に深く係わることになった。

幕府がオランダから寄贈を受けた艦船スピン号(観光丸)を練習艦として近代的海軍の制度、技術を学ぶべく教師団の派遣を要望したが、その「海軍伝習所」をこの西役所に設置した。ちなみにこの時の伝習生の中には榎本武揚、勝海舟、川村純義など、幕末の日本を動かし、また明治新政府下で重要なポストにあって活躍した人材が含まれていた。

オランダが派遣した第2次海軍伝習隊には、隊所属の医師としてボンベが来日した。幕府はボンベに依頼して医学の伝習を行ったが、この「医学伝習所」も西役所に設けられた。この医学伝習所はのち長崎大学医学部に発展することになり、ボンベの最初の講義が行われた11月12日は同大学医学部の創立記念日になっている。ボンベの医学伝習と医療活動はまことに目覚ましく、医療施設や制度の劣悪さを幕府に強く訴え、とうとう唐人屋敷の近くの小島郷の高台に「小島養生所」の設立にこぎつけた。これは日本で最初のヨーロッパ式の病院と医学校になった。

この養生所には物理学・化学の伝習も行なう舎密(せいみ)試験所が設けられた。日本で初めての写真家になった上野彦馬はここで化学を学習し、写真に必要な機材から湿板に到るまで自ら製作したと言う。

さて、1855(安政2年)の日蘭和親条約によってオランダ人の拘束は解かれ、1858(安政5年)には商館が廃止されて領事館となった。こうして海外との唯一の接点だった出島の機能は完全に終了した。

このときの最後の商館員たちはどんな気持ちだったろうか、推し計るすべはないが、世界でも稀有な形の通商関係・外交関係が300年も続いた国の姿は驚異とも異常とも思える。この史実が日本の近代化にとって僥倖だったのかどうか、歴史に「もし」はない今、それを検証する手立てはないだろう。〔参考文献：片桐一男『出島』(元丸善本の図書館長)

—言語学百科事典の定本が12年ぶりに改訂!—

言語・言語学大百科事典 第2版 全14巻

The Encyclopedia of Language and Linguistics

2nd Edition

Editor-in-Chief: Keith Brown, University of Cambridge, UK

2005.11. 14 Vols. c.8,000 pp. (ISBN:0-08-044299-4 / 注文番号MBN: 0405348)

特価 (2006年2月15日弊社受付分まで) 予価 ¥713,055(税込)

通常価 (上記以降) 予価 ¥891,240(税込)

「言語・言語学大百科事典」初版は、Ron Asher編集により1993年に刊行されると、各方面から絶賛され、これまでの約10年間に言語学の分野で最も権威のある国際的レファレンスとして定評を得てきました。2005年11月に刊行となる第2版は、この初版を土台として改訂されます。

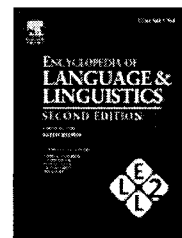
初版刊行の後、言語学は分野自体の更なる専門化と、他分野との学際化が大幅に進展しました。第2版ではこうした変化を内容に反映する予定です。第2版には、新しい編集者・執筆者のもと、書き下ろしの増補された項目や、新しい見出し・記事が多数収録を予定され、単なる初版の増補ではなく、その点では全く新しい百科事典と言えます。その一方で、初版からは歴史的事項を中心に古典的な項目をある程度残しています。

本百科事典は現代言語学分野の全てのトピックスを網羅します。言語の種類としては、話し言葉、書き言葉、手話の全てを扱います。個々の言語の表記・分析・使用について解説。また、ある特定の言語や複数の言語について、類型論・歴史学・比較論・変異論的な研究方法を紹介します。同様に、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、ディスコース研究などの基本的な言語学理論について、形式・機能的な研究方法を収録することに留意いたします。さらに、応用言語学、社会言語学、心理言語学、テキスト言語学のほか、人類学、教育学、心理学、言語獲得、言語病理学、認知科学、社会学、法学、メディア学、医学、コンピュータ科学など言語学と学際的に関連する様々な学問分野についても言及いたします。

世界の主要言語の構造、歴史、使用について解説し、危機言語などの少数言語の多様性についても言及します。世界各国の言語状況についての解説も収録。言語理論そのものの歴史にも注目し、650名以上の言語学者の伝記を収録予定です。

21世紀における言語学レファレンスのスタンダードとして本百科事典をお薦めいたします。

- * 収録語数：約750万語
- * ページ数：約8,000ページ
- * 項目数：約3,000項目
- * 図版数：約1,500点
- * 用語の定義：約3,000語
- * 参考文献：約39,000件
- * オンライン版も予定



(Pergamon, GBR/日本総代理店:丸善)

※上記の商品に関するお問い合わせは、弊社学術情報ナビゲーション事業部 商品本部企画開発部(TEL: 03-3272-7235)までお願い致します。

- 原価改定、為替相場の変動等の理由により、価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文は弊社本・支店営業部(課)までお申し付けください。



ESTABLISHED IN 1869

【学術情報ナビゲーション事業部】 〒103-8244 東京都中央区日本橋3-9-2 第二丸善ビル
☎(03) 3272-7235 <http://www.maruzen.co.jp/home/im> 振替: 00170-5-5

営業部・支店・営業所＝横浜・千葉・八王子・大宮・筑波／札幌・盛岡・仙台・浜松・名古屋・岐阜・金沢
京都・大阪・神戸・岡山・松山・広島・福岡・長崎・熊本・沖縄／ニュージャージー・ロンドン